

警察署協議会議事録

協議会名	令和6年第2回宮城県佐沼警察署協議会
開催日時	令和6年8月8日（木） 午後2時00分から 午後4時00分まで
開催場所	宮城県佐沼警察署会議室
出席者等	<p>1 協議会委員（6名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出席委員～佐竹委員、太田委員、伊藤委員、佐々木委員 千葉委員、進藤委員 ・ 欠席委員～なし <p>2 警察署側（9名）</p> <p>署長、副署長、警務課長、生活安全課長、地域課長、刑事課長、交通課長、警備課課長代理、警務係長</p>
議事概要	別紙記載のとおり
備考	

備考 所定の欄に記載することができないときは、別紙に記載の上、添付すること。

【協議事項】

1 上半期における治安情勢について（生活安全課長、交通課長）

(1) 社会情勢の変容と治安課題の複雑化（生活安全課長）

現在、社会情勢が変容し、治安情勢が複雑化していると言われている。

治安情勢が複雑化している要因としては、人口減少、少子高齢化、情報技術の発展、サイバー空間の拡大、経済のグローバル化、経済安全保障・地政学的な緊迫、自然災害の激甚化・頻発化などがあげられている。

(2) 治安に関する意識の変化（生活安全課長）

治安に関して、日本人の意識も変化していると言われている。

令和4年の内閣府の調査によると、日本は安全・安心な国だと思おうと答えた人が85.1パーセントと比較的高い結果であったが、ここ10年で治安が悪化したと答えた人が54.4パーセント、人と人とのつながりが希薄になったと答えた人が54.1パーセント、国民の規範意識が低下したと答えた人が33パーセントとなっており、国民の治安に関する意識が変化していると認められる。

(3) 刑法犯認知件数（生活安全課長）

刑法犯認知件数について、令和5年は増加となり、宮城県内はコロナ前よりは、若干少ない件数であるが、佐沼警察署管内はコロナ前と比較しても、大幅に増加している状況である。

今年6月末現在の刑法犯認知件数は宮城県内で5,619件、佐沼警察署管内は140件であるから、この数値を2倍にすると、令和6年12月末には、県内は1万1,238件と微増、佐沼警察署管内は280件と増加するペースで事件が発生している状況である。

佐沼警察署管内においては、全体の43パーセントが窃盗犯、23パーセントが知能犯となっている。

宮城県内も佐沼警察署管内と同様、窃盗犯が最も多い状況である。

佐沼警察署管内は、宮城県内と比較すると、窃盗や粗暴犯の割合は少なめで、知能犯と他の罪種が多いという特徴がある。

(4) 特殊詐欺発生状況（生活安全課長）

令和5年中の県内における特殊詐欺の被害は、352件、被害金額は約9億7,478万円であるから、前年と比べて増加しており、このままのペースで被害が発生した場合、被害額が年間10億円を超える可能性がある。

佐沼警察署管内の特殊詐欺の被害については、令和2年は認知なしであったが、昨年から急増しており、昨年の被害額については約2,465万円であった。

令和6年6月末現在では、5件、約1,584万円の被害が発生していることから、このままのペースで被害が発生した場合、年間3,000万円を超える被害になる可能性がある。

(5) SNSを悪用した新たな詐欺の手口・特徴（生活安全課長）

特殊詐欺から今年、別分類とされた詐欺として、SNS型投資詐欺、ロマンス詐欺がある。

SNS型投資詐欺とは、インターネット上に著名人の名前、写真を悪用した嘘の投資広告を出したり「必ずもうかる投資方法を教えます」などとメッセージを送るなどして、SNSに誘導し、投資に関するメッセージのやり取りを重ねて被害者を信用させ、最終的に「投資金」や「手数料」などという名目で、ネットバンキングなどの手段により金銭を振り込ませる手口の詐欺である。

ロマンス詐欺とは、SNSやマッチングアプリ等を通じて出会った者と、実際に会うことなくやり取りを続けることで、恋愛感情や親近感を抱かせ、金銭等をだまし取る手口の詐欺である。

今年に入って、SNS型投資詐欺・ロマンス詐欺の被害件数の合計は、県内で117件、被害額約9億3,925万円であり、特殊詐欺の170件、5億3,698万円と比べれば、件数は少なくとも、被害金額は特殊詐欺を大幅に上回っている。

SNS型投資詐欺、ロマンス詐欺について、被害者の男女比は、男性58パーセント、女性42パーセントであり、男性の方が若干多いという比率になっている。

SNS型投資詐欺、ロマンス詐欺は20代から80代まで幅広い年齢層の方が被害にあっているが、2つの詐欺の被害者をトータルすると50代が最も多く、次いで60代、40代となる。

被害に遭うことになったきっかけになったものとして、バナー広告、ダイレクトメッセージ、オープンチャットなどがあるが、端緒として最も多かったのはダイレクトメッセージ

であり、次にバナー広告であった。

端緒となる連絡ツールの特徴としては、インスタグラムやフェイスブックに送られてきたダイレクトメッセージや、バナー広告などをきっかけに、犯人からLINEに誘導され、現金送付まで、LINEで犯人と連絡をとるようになっていくという特徴となっている。

被害者から犯人への送金手段として最も多いものはインターネットバンキングで48パーセントであり、次いでATM振込31パーセント、電子マネー9パーセント、暗号資産8パーセントであった。

SNS型投資詐欺、ロマンス詐欺は、きっかけがダイレクトメッセージやバナー広告等、連絡ツールがLINE、送金手段がネットバンキング等であるという特徴から、被害者が家族や知人に相談したり、振込時に店員さんなどに声掛けされる可能性が低く、被害に遭っていることに気付くのが遅れるため、被害の額が多いと考えられる。

(6) 複雑化する治安課題への対応（生活安全課長）

ア 検挙状況

検挙とは、警察などの捜査機関が被疑者を特定し、刑事事件として処理することである。

検挙することの効果としては、被疑者への心理的威嚇があり、犯罪減少に繋がるため、検挙に勝る防犯なしと言われている。

佐沼警察署の昨年の検挙率は37.9パーセントであったが、今年6月末現在では約40パーセントとなっている。

宮城県内の検挙率は、令和5年が41.3パーセント、令和6年が41.2パーセントとなっており、佐沼警察署の検挙率については、概ね県内の平均と同じくらいとなっている。

佐沼警察署において令和6年上半期に検挙した主な事件については、強姦性交等事件、連続発生の色情盗事件、高級シャンプー不正転売に係る詐欺及び医薬品医療機器法違反事件などである。

今後も、署員一致団結して、身近な事件はもとより、社会的反響の大きな事件の検挙を目指して努力する所存である。

イ 防犯対策

犯罪が発生すれば、被害届の受理、実況見分、防犯カメ

議事概要

ラの精査などの捜査に警察力を費やさなければならず、パトロール活動等の犯罪抑止活動を行う時間が減少することになり、犯罪が増加してしまう。

すると、治安の悪化につながり、負のスパイラルに陥ってしまうことになることから、防犯活動は重要である。

市民の皆様の安全安心を確保するためには、犯罪が発生したら早期に検挙することと併せて被害抑止対策を行い、検挙と抑止の好循環を生むことが重要である。

そのための警戒活動として、地域課員を中心に管内のパトロールを実施しているほか、佐沼警察署管内で万引きなどの被害が多い大型商業施設への立ち入り警戒を積極的に実施している。

また、大きなイベント開催時には、雑踏事故や犯罪抑止のため、主催者などと協力しながら、雑踏警備を実施している。

犯罪抑止には、一般の方々の防犯意識の向上が重要であることから、防犯キャンペーンでのチラシ配りや大型商業施設の協力を得て、デジタルサイネージを活用した注意喚起を行うなど、市民の犯罪に対する抵抗力の向上を図る活動を行っている。

SNS型投資詐欺やロマンス詐欺の手口を広く知ってもらい、被害を減らすことや、少年の非行防止を図ることを目的に、地元FMラジオの協力を得て、ラジオCMを制作し広報を実施している。

ウ 少年の健全育成活動

少年の健全育成活動は将来の治安情勢へ大きく影響するため、あいさつ運動や各学校において非行防止教室などを通じて、少年の健全育成活動を実施している。

そのほか、職場体験学習に訪れた中学生に、警察官の制服を着てもらい、コンビニエンスストアに対する防犯指導を実施する活動や、少年補導員協会の方々と、公園やゲームセンターなど少年が集まる場所への街頭補導活動や、見守り活動を行い、子供達に大人の目があることの緊張感と安心感を与える活動を行っている。

エ 有事への備え

佐沼警察署では、有事への備えとして、信号機が滅灯した際における信号電源確保のための発動発電機使用訓練、水害発生時に救助などで使用する舟艇組み立て訓練などを

行っている。

ほかにも、災害などで留置人を避難させなければならない事態を想定した訓練や闘争事件や過激なデモを想定した訓練を行っている。

【意見・要望】

—委員—

先程、ラジオCMを聞かせてもらい、すごくいい取り組みだと関心した。

ぜひ聞いてみたいので、具体的なラジオ放送の時間帯を教えてください。

—生活安全課長—

ラジオ放送内で、朝昼夕の一日3回、警察署からのお知らせという形で放送している。

—委員—

犯罪の抑止について、パトカーでの巡回が重要だと感じている。

大通りから少し狭い道路に入ったところも巡回してもらっており、子供達への非行防止や私達の安心にも繋がっていることから今後も継続してもらいたい。

—生活安全課長—

ご意見を参考として今後も防犯活動を推進していく。

(7) 交通事故発生状況等（令和6年6月末現在）（交通課長）

令和6年6月末の交通事故発生状況については、人身事故発生件数が31件、前年比－19件、死者数1名、前年比＋1名、負傷者数32名、前年比－26名、物損事故発生件数が482件、前年比－3件である。

特徴の1点目は、人身交通事故の発生件数が大きく減少している点であり、前年の同じ時期と比較して約40パーセント減少している。

令和6年6月末の宮城県内の人身交通事故の発生件数は、1,798件、前年比－136件であり、7パーセントの減少であることに照らしても、佐沼警察署管内の発生率が大幅に減少したことが分かる。

特徴の2点目は、事故の種類であり、例年宮城県内の平均を上回っていた出会い頭の事故と追突事故の発生割合が減少している。

佐沼警察署管内の出会い頭の事故については、令和5年中の発生件数の32.6パーセントであり、宮城県内の平均値である24.2パーセントを大きく上回っていたが、令和6年6月末

時点では、発生件数の25.8パーセントと宮城県内の平均値とほぼ同水準まで減少した。

追突事故についても、令和5年中の発生件数の42.1パーセントであり、宮城県内の平均値である36.8パーセントを上回っていたが、令和6年6月末時点では、発生件数の38.7パーセントと宮城県内の平均値とほぼ同水準まで減少した。

これらの事故が減少した要因は、佐沼警察署管内の交通事故の発生時刻、路線、地域などを分析し、交通事故の発生場所付近において交通取締りを実施したほか、交通事故現場付近において街頭キャンペーン、交通安全教室を実施したことによる。

交通取締りや街頭キャンペーンを実施することが困難な場所については、付近の会社やコミュニティーの集まりにおいて交通安全講習などを実施している。

さらには、関係機関団体の協力を得て、学校や企業を訪問しての交通安全講習や、高齢者宅訪問による声掛けなどを実施している。

(8) 重大事故（令和6年6月末現在）（交通課長）

ア 死亡事故

発生日時：令和6年3月11日午後1時15分ころ

発生場所：登米市迫町森地内みやぎ県北高速幹線道路

事故概要：軽乗用車とトラックの正面衝突により、軽自動車を運転していた58歳男性が死亡、トラック運転手についても両足を骨折する重傷を負ったもの。

イ 重傷事故

発生日時：令和6年4月26日午前2時30分ころ（発見）

発生場所：登米市南方町峯地内市道

事故概要：普通乗用車が車線を逸脱し、進路右側の歩道上に設置されていた予告信号柱に衝突し、石巻市在中の18歳男性運転手が意識不明に陥ったもの。

2 令和6年下半期速度取締り指針について（交通課長）

交通死亡事故など、重篤な事故を抑止するためには、衝突時の衝撃を抑えることが重要であるため、速度違反の取締りを行い、スピードを抑制することが必要である。

佐沼警察署管内における交通事故実態については、国道346号、県道古川佐沼線、国道398号、県道築館登米線、県道中田栗駒線

の5路線で発生した交通事故が佐沼警察署管内で発生した事故の50パーセントを占めている。

人身交通事故は、通勤通学時間帯から正午にかけて集中して発生し、一旦減少後、15時から薄暮時間帯の19時にかけて多発する傾向にある。

交通事故の原因は、安全不確認、前方不注意、一時不停止が多く、交通事故の形態は追突事故、出会い頭事故の順に発生している。

令和6年6月末までに佐沼警察署管内で発生した人身事故の件数については266件であるが、そのうち152件、約60パーセントが交差点、交差点付近における事故であった。

そのため、幹線道路に接続する交差点における信号無視、一時不停止、横断歩行者妨害といった交差点関連違反についても取締りを実施し、警察官が取締りを実施している姿を運転手に示し、注意喚起をすることによって、速度違反の抑制を図り、交通事故の発生そのものを効果的に抑制していく。

【意見・要望】

—委員—

交通安全教室に参加したが、高齢者に好評であったため、またお願いしたい。

—交通課長—

ご意見を参考として今後も交通安全教室を実施していく。

—委員—

一時停止の線をはみ出してから停止してしまう運転手がまだまだ存在するため、自分自身もしっかりと停止線で一旦停止し、ゆっくりと交差点に進入するように努めていく。

警察官が交差点で取締りをしている姿を見掛けると驚いてしまうが、いい注意喚起になっているため、交差点関連の取締りを継続して欲しい。

—交通課長—

ご意見を参考として今後も交通取締りを実施していく。

